

「生命現象をつかさどる役者の立ち振る舞いを見る、探る！」

オーガナイザー : 鎌形 清人 (東京大学桑島研究室 D3)
講師 : 梅澤 喜夫 先生 (東大・理)
高田 彰二 先生 (神大・理)
後藤 祐児 先生 (阪大・蛋白研)

生命現象は支配しているのは、まぎれもなく、生体内分子であろう。生体内分子の振る舞いを見るときに、私はいつも役者を連想する。人間と同様に、役者(生体内分子)の一生にはドラマがあり、我々を強くひきつける。誕生、成長、舞台での活躍、そして、死。

今、生体内分子の個性や素性の研究があつい。その理由は、生命現象という舞台を想像したときに、生体内分子の活躍は生命現象に不可欠であるからだ、私は思う。

本シンポジウムでは、役者に焦点をあてたい。生体内分子がどのように成長し、舞台上で活躍するかについて、実験的に、または、理論的に明らかにしようとおられる先生方をお呼びする予定である。蛋白質の素性を明らかにしようとしている後藤先生、または、蛋白質の成長過程がどのような原理に従っているかを追求している高田先生、一細胞内の生命現象を生体分子単位で明らかにしようとしている梅澤先生。いずれも、この分野の研究では第一人者である。

また、先生流(俺流)の研究方針を盛り込んでいただいて、お話をさせていただく予定になっていますので、普段あまり聴くことのできない裏話なども披露して下さることになっています。この機会に、先生方の役者に対するあつい想いや俺流の研究スタイルを聞いてみるのはいかがでしょうか？